

令和4年6月8日 高校と地域の連携強化戦略会議 議事録

政策企画課

日時：令和4年6月8日 15時から17時

場所：市民文化センター 研修室 301

出席者：上水流委員長、佐田尾委員、牛来委員、本多委員、福岡委員、久保委員、中間委員、猪掛委員、永井委員

事務局：高下課長、戸田係長、旭

作成者：旭

事務局

安芸高田市高校と地域の連携強化戦略会議、令和4年度第1回を始めさせていただく。

議事までの進行を、政策企画課の高下がつとめさせていただく。

初めに、上水流委員長に、挨拶をお願いしたい。

上水流委員長

今年度、実質初めて皆さんでしっかり議論するような日になっていると思っている。

今回いろんなデータ等々、含まれているし、また今後のデータになればという意味でも、話し合いをさせていただければと思っている。何よりも自由にいろんなご意見を出してもらうことが一番大事だと思う。

ご遠慮なくいろんなご発言をいただければと思う。

今回の会議から参加された委員自己紹介

中間委員

この4月から向原高等学校に校長として赴任した。

前任の澤村校長から、学校の魅力化、そして、地域の連携も含めた学校の魅力化のところは引き継いでおり、どうやって活性化させていくかを、ここ2か月、教頭とも、また職員も交えながら、いろいろと検討してきたところである。

今日1枚ほど紙を出させていただいた。

まだ、検討しながら、外部の方と連携をしながら取り組みを進めている段階で、具体的な動きがまだなかなかとれていないのが実情である。

そうは言っても本校の生徒の入学者数の増加を、第1に考えて、取り組みをさらに加速していきたいと思っている。

あわせて、本校の数少ない生徒だが、頑張って勉強、そして部活動をやってくれている。

中には3人で野球の練習、2人でサッカーの練習を、頑張ってくれている。そういった生徒も、日々見ているので、何とか単独のチームが組めるようになりたいなと思いながら、生徒といろいろ話をしている。

今いる生徒を大事にしながら、次の入学者の増加に向けて進んでいきたいと思う。

永井委員

委員の皆様には、安芸高田市はもとより、教育委員会に関わります仕事等にご指導ご支援をいただいていること、この場を借りまして、厚く感謝とお礼を申し上げる。

つい先般、3期目丸10年が終わり、4期目、11年目に入った。

長くすることが良いこととは全く私自身思っていないが、指名をいただいたので、私にできることを、皆さんの力を借りながら、精一杯、まずは義務教育の充実のために、頑張っていければと考えている。

私は旧高田郡6町、小学校・中学校で、向原以外、五つの町の学校でお世話になってきた。その中で、とりわけ高宮町の川根小学校で、約2分の1に近くなる、12年間勤務をさせていただいた。

ここ最近、様々な形で、教育も大きく変わらなければならない、変わろうとしているが、また、委員に加えていただいたので、私なりに、ここで、学びを深めさせていただき、何らかの形で、義務教育にも生かしていければと思っている。

議事

(1)戦略会議の進め方について

①役割

②今後の取り組みのスケジュール

【事務局説明】

会議の目的：これから地域社会を担う人材を育成するため、市内高等学校及び地域が共同した教育環境づくりの具体的な方法等を検討する場。

①戦略会議の役割

- ・高校の魅力化を含め、高校と地域の連携戦略を協議する
- ・主役を生徒と捉え、生徒たちの自己実現をどう応援していくか
- ・生徒たちが主体的に判断して生き方を形成していく力
- ・実践のキャリア教育の提供方法を協議する場
- ・それぞれの特徴や環境を生かした学習カリキュラムの構築を応援する

②今年度のスケジュールの提案

- ・今年度5回開催したい
- ・5回の議論方法として、現状・課題・要望の把握 → 結果を基に取り組みの方向性の検討・決定 → 具体化 → 取組の方策の検討・決定 → 実施 → 振り返り
- ・令和2年度からこの会議に市が関わらせてもらって、地域の企業や団体の要望はよく聞かせてもらった。3月に開催した会議では各高校の状況など現場把握をさせてもらった。主役となる生徒の情報が不足しているのではないかと生徒アンケートの実施をしてみたい。
- ・6月中→精査したアンケートの実施
- ・7月→結果の集約
- ・8月→第2回目の会議で結果を共有・報告。委員の皆さんから自由度の高い議論を通してアイデアだしの場とする。
- ・10月→出た意見等を高校に持ち帰ってもらい、どういったことができるか共有してもらおう場。
- ・12月→今年度の取り組みの状況、来年度に向けた取り組みの協議。今後設定するテーマの協議。第4回目もしくは第5回目で、中学校3年生に対しての進路アンケートを行いたい。
- ・3月→今年度の振り返り

- ・会議は2年間。サイクルを1年ごとに回し、3年目以降も取組を継続させていく形をとりたい。
- ・協議の具体の取り組みに向け、各高校に補助金を用意している。各高校それぞれの思いと、会議での具体化、生徒の発案が何かの形になる取組につながればと思っている。

③生徒アンケート

④指標の設定について

目的：生徒の高校に対する気持ちやニーズ、抱える課題、地域とのつながりの現状把握

- ・アンケート調査を毎年繰り返し実施することで、この取り組みがどのような変化をもたらしているか指標を設け、確認につなげる。
- ・生徒にQRコードを配布し、(Google フォーム) スマートフォン等で回答を行う。
- ・一通りのアンケート内容の説明
- ・指標の設定について、このアンケートの設問を、同じ質問を、毎年繰り返していく中で、生徒たちの思いに変化がどう生じているかを図りたい。
- ・現在では通ってよかったと思える高校に向けて、今ある質問の中の、「現在通っている高校を、兄弟であったり後輩に進めたいか」であったり、「通っている高校の満足度」や、「大人になって実現したい夢があるか」といったところの自己実現、自己の確立に向けて何か影響できているかどうかというあたりが、一つの指標と位置付けられるかと事務局では思っている。

上水流委員長

各高校の特色ある取組を応援するお金として、予算的に1校、100万円の予算があると伺っている。

私から申し上げておくこととして、ここでいろんな意見を出していただくが、最終的には、校長先生のお考えが非常に大きいと思っている。

やっぱり、高校として、何ができるのか、何がしたいのかが、最終的には判断にかかってくる。ここで、いろんな委員から、いろんな意見が出て、その意見をなぜ取り上らないんだみたいな話にならないようにしないといけない。

あくまでも、我々、高校以外のメンバーは、いろんなアイディアを出して、その中に高校にとって手がかりになるものを提供できればということが、基本的なスタンスであろうと思う。

最終的には高校が、どんな形になっていくのか、例えば、どうやって定員を満たしていくのかも含めて、最後は校長先生のご判断・ご責任になってくる。

そう考えたときに、高校の意見を尊重していくことが大事だと、私は考えている。

そこは皆さんもご理解していただき、いろんな意見を出してもらえればと思う。

猪掛委員

今、全体的な流れの中で、周りでいろんなことを言っても、これが高校にとって、すごく負担になってしまって、やりづらいというような取り組みでは、これは本末転倒、もともこもないと思う。

やはり、この中で出た意見というのはいろんな自由な発想で出していただいても結構だが、それをどういうふうにと落とし込んでいくかというのは、それぞれの高校での取り組みと照らし合わせてということになると思う。

少し我々が言い過ぎの部分も出てくるかと思うが、そのところはそのように解釈していただければと思う。

上水流委員長

委員からしっかり意見を言ってもらうが、それがどうなるかっていうのはちょっと別の話だと思っただけであればいいかなと思う。そういうところでご理解いただければと思う。

久保校長

学校、校長として、いろんな関係者がおられて、地域の関係者、地域でもこういう公じゃないつながりの要素、個別につながっている人もおられるし、議員もおられる。大元でいえば県の教育委員会。また、実際的には保護者、生徒と、そういったところのベストミックスができればいいと思う。

どうしても高校の中だけでは、協議の内容に広がりがでにくい。新しい視点というところで意見をどんどん貰えたらと思う。

佐田尾委員

戦略会議の役割で、次回アンケートをして、集約して、生徒の声、現場の声を吸い上げて行くというのは一つだと思うが、逆に、向原高校・吉田高校に対して、社会、地域が何を求めているか、何かそういう外的な要請をもうちょっと具体的なアイデアにして、同時に、話し合っても良いと思う。

2年間でもあるので、もたもたしているとすぐ予算編成の時期などがやってくる。

アンケートの結果集約をする次回、同時に、外からのアイデアを両校の今のカリキュラムや学科、プロジェクトに即した具体的なものを作っていく、年度途中からでも実行できるように加速させてもいいんじゃないかと個人的に思う。

上水流委員長

8月のところで「アンケート結果集約」「アンケート結果を踏まえた」というふうになっているが、ここは「アンケート結果も踏まえた」というふうに思っただけだと思います。

高校生がこういうことを望んでいると、それに基づいてというのも大事で、それは重要な参考資料になると思っている。

同時にここに集まってくただく方は、様々な経験をされている。そういう経験に基づいて、学びの方法の提案を出してあげたらと思っている。

なので、この「アンケートの計画も踏まえた」というふうに思っただけだと思います。次回8月では、より自由に、アンケート結果も踏まえながら、いろんなアイデアを出していただくような感じにしていきたいと思っている。

事務局

補足だが、アンケートの結果は、事前にお送りして、それを見ながら、委員の皆さんのイメージを膨らませさせていただけるような準備をしたいと思っている。

牛来委員

先ほどの説明だと予算が100万円あるから、その100万円からプロジェクトみたいなものを学校でやるというあたりが最終的な落としどころはそうなのかもしれないが、今回のこの委員会は、その1プロジェクトを考える委員会ではないんだろうと思っている。

ある面、突拍子もないことをやらないと、多分変わらないだろうと思っている。2年後3年後でも、大きな特色を設けていくための戦略を考える、そんなアイデアを言ってもいいものかどうなのか確認したい。

そういう方針ではなくて、1プロジェクトを考えるのであれば、そういったアイデアを出そうと思う。

上水流委員長

私自身はそれ両面だと思っている。

1プロジェクトを考えるだけとは思っていない。いろんなアイデアが出た中で、予算の中で、より高校が良い形になるのであれば、使えるお金があると考えてもらえたらと思っている。

さきほど言われた、突拍子もないことを考えることもすごく思っている。

そこは、忌憚のないところで自由に意見を言っただいただいたら私は思っている。

そうは言いつつも、実際に高校ができることも考えないといけない。

長い目で見たときに、それぞれの高校で、こういうことができたらというような突拍子もないことも含めて考えていく部分と、いろんなアイデアが出る中で短期的にできる部分と、一緒にやって

いけたらと考えている。

極端なことを言えば、突拍子もないことは言わないでも思っていないし、高校の取組に対して、ここを強化すればというご意見もいただきたいと思っている。

牛来委員

一応、流れはあるのだろうけども、長い時間があればいいが、危機的な状況にあって、短期で突拍子もないこと、インパクトのあることを考えなければいけないと思っている。

上水流委員長

どんどん意見を出していただいて良いと思っている。そこがこの会議にそぐわないと思わない。ただ、先ほどからのとおり、基本的にアイデアを出して頂いても、最終的にどうなるかは、最終的に県立の高校として、校長先生、ひいては、県教育委員会の議論になる。そこはちょっとご理解いただきたい。ただアイデアはどんどん出していただきたい。

牛来委員

おもしろいアイデアが出せるかどうか…

上水流委員長

本当にいろいろな意見を皆で出した方がと思っている。この狭いところで特定のものだけで考えてくるとかはしたくないと思っている。

中間委員

校内でいろいろ職員交えて検討するが、なかなか枠を、突き抜けられない。私含めて、職員が、今までの経験や、自分自身の価値観とか、既存の中でしかなかなか考えられない現状。まさに外から学校を見て頂いて、突拍子もないそういったアイデアを頂けるのは本当にありがたい。

上水流委員長

どうなるかとか、予算とか考えてなくてもいいと思う。校長先生がこういうアイデアはおもしろいなと思っていただけるのをどんどん出していくことが大切。

大きい予算が必要なのは県の教育委員会に要請するしかないと思っている。県立高校なので、そう考えてもらえれば良いと思う。

本多委員

戦略会議の中で、高校と地域との関わりをどういった見解を持って、関わっていくのかっていうことを、ある程度、具体化していく方が良いと思う。

例えば市内に、地域、各ジャンルのいろんな組織形態があるが、代表の方々に集まってもらって、高校生がこんな仕事があるよっていうのを理解してもらうためのパネルディスカッション的なことも行ったり、あとは高齢者に歴史を伝えてもらうことであったり、ということも1つの手段かと思った。

その中で、ここ安芸高田市に残って仕事をしたい、1回出たけど帰ってきて仕事がしたい、そう思える環境を作っていくことは必要だろうと思う。

あと、最近、よく県とかでも、抽象化力をつけるということがテーマにのぼる。

調べようと思ったらスマートフォンでなんでも調べられるので、思考力、思考停止が起きる。

考えることをしなくても行動ができる世の中で、想像する、考えることを抽象化力を持って想像しながら、生活していく環境を、学校として、地域としてつくり出していく必要があるんじゃないかと感じる。

上水流委員長

スケジュール感、会議における役割、どんな形で進めていくかってことについて、ご了解を得たということで、次の話題に行きたいと思う。

次の話題は、アンケート調査になる。

アンケート調査の実施と、どういう指標を継続的に測っていくか、高校と地域の取組が、どれだけ効果を発揮しているかなども測っていくことになると思う。

○アンケートについて（委員からの意見）

- ・アンケート内容でいらぬ部分、変えようのない部分は削除していく。
- ・生徒が答えやすい質問がいい。
- ・生徒から突拍子もないアイデアを引き出したい。
- ・自由に記述できる質問、生徒が思っていることに触れられる設問がもう少しあればいいのかなと思う。
- ・スマホのアンケートで時間を使うのなら、機会があれば対面で話を聞いたり、生徒から届きやすい形があるのかなという印象を持った。
- ・質問量については、半分に減らす。
- ・項目と文章が長いところは、短くする。
- ・答える側の立場になって作りたいと思う。
- ・たくさん地域という言葉が出てくるが、地域ってなんだろうと思うかもしれない。地域を分かりやすくしたい。

→あんまり「地域」という言葉が出てくると「地域に残れ」というメッセージみたい。

→地域に関わることを逆に遠ざけてしまっている。

- ・自由に配るとどれくらい回答があるか分からない。
- ・今、興味関心を持っていることや、プライベートなこと、やってみたいことを聞きたい。生徒の個々の強みなどを聞くと何かのヒントになるかもしれない。
- ・高校生自身のことを聞きたい。
- ・性別欄は（ ）で書かせる
- ・自由記述にすると書かない場合も多い。具体的な選択肢を提示して答えてもらう方がいいかも。
- ・高校で把握している質問は聞かない（授業で行っているかどうかなど）
- ・答えた人にインセンティブとかあれば…
- ・通学面についての意見を吸い上げられたらいいと思う。
(デマンドバスとかあっても使わない現状。親の送迎が多い)
- ・生徒が今通っている学校がこうだったらいいなとか、どう変わればいいのか、どこが不満かどうか改善したらいい学校になるかとか聞いてみたい。
- ・主語が誰なのか

事務局

両校の校長先生の考えも少し聞いてみたい。

中間委員

今の段階の質問 20 あるいは質問 30 というところを聞いてみたい。

あと、生徒募集を考えたときに、質問 11 とか 12、13 は、学校の今後の取り組みの継続、改善などを考えたときには、基礎資料としてあればと思う。

久保委員

実際に生徒たちが回答するとなると、授業の時間を割いてはできないので、帰ってやることにな

る。帰ってやるとなると、時間をとらなければいけないので、単にやったり、途中でやめたりすることも想像される。学校でするとなると、朝・帰りのホームルーム、10分できるぐらいにしてもらわないといけない。

できるだけ多いデータを集めて、活用したい。

内容でいうと、質問 9. 10 は、安芸高田市にこだわった質問→うちの生徒の 300 人中約 9 割近くは安芸高田市の子なので、答えるだろう。

一方で、例えばユース生、うちには学年 100 人のうち 12 人、約 1 割ユース生がいる。ユース生や、広島市に住んでいる子からしたとき、例えば問 10 ので、どうやって回答するか、裏返しをちょっと想定しておかないと、データがぶれてしまうことになる。

問 15-16 くらいまででよいのかなと思う。

例えば問 16-17。16 と 17 って満足している、満足していないというのは、ある意味重複している面もあると捉えた。

戦略会議の役割が、主役である生徒の自己実現を応援とあるが、その上の設置目的のところには、これからの地域社会を担う人材を育成するとある。地域社会を担う人材という言葉、めくってしまえば、安芸高田市を支える人材を育成したいという目論見が見える。

「安芸高田市内の高校にいかに残すのか」というのが目的だろうと、私は今そう思っている。

小中は地域で育ったけども、市内の中学生の約半分が、広島市内、三次市の高校に入学している。いずれにしても大学就職になるとまた出ていく可能性もあるが、地域の認知度を高めたいとか、地域の人と信頼関係を作りたいっていうのであれば、できるだけ長く小中高と地域にいた方がいいのかもしれない。

地域の中で、豊かな世界観を持たせる、そして地域のことも深めていく、そういう教育活動がここでもできる学校ができるといいのだろうと思う。

私がアンケートを取ってほしいのは中学 3 年生。中学 3 年の 2 月か 3 月ぐらいに、なぜあなたは市外に出ていくか、という質問をぜひ聞きたい。どうして他市町の高校を選んだのか分析しないと、その逃げられた部分が弱み、魅力がない部分、そこを補うところは何なのか、具体的なデータがあると、ありがたい。

例えば、部活動指導できる顧問が少なくなってきたとか、部活動の部員が少なくなってきたとか、課題が明確になった方が動きやすい。

上水流委員長

中 3 へのアンケートは、12 月に予定はしている。タイミング的には進路が決まったあとに取ることになる。データをしっかりとって、みていくことが必要。

私自身は、地域社会そのものは正直に言うと、安芸高田市とは考えておらず、広く考えている。遠い向こうには、安芸高田市に対して何らかの思いをもってくれる高校生が育ってくれたらいいなと思っている。今ここで安芸高田市だけに特化すると、議論が狭くなってしまうので、広い意味の地域社会で捉えられたらと思う。

○アンケート（まとめ）

- ・ 問 1→性別欄は（ ）で書いても書かなくてもいいようにする
- ・ 問 5 の夢に関することは基本事項ではなく、問 20. 21 あたりで聞く。
- ・ 問 8-10 は削除
- ・ 問 11-13 は文言を短くする。
- ・ 問 14-16 は、問 14 を残して、問 15. 17 を削除、問 16 を残して満足しているものはなんですか（満足していないも選択肢に入れる）と聞く。
- ・ 問 18・19 は削除
- ・ 質問 20→学びたいと思っていること

- ・質問 21→自分が何を变えたいか
→学校生活で改善されたいことはなにか選択式
(交通・ネット環境、部活、交流、その他)
- ・問 22-29 は問 30 の質問に一括させ、アイデアがありますか?であるかないか聞いて、あれば詳しいことを記述で書く
- ・一旦以上の内容で作成し、選択肢等について意見を出してもらい、事務局と上水流先生の方で整理し作成する。

○高校と地域の連携状況について

(1)吉田高校

吉高ジャーナルから、昨年度1年間、地域とどういふコラボレーションをしたかわかっていただけの。

中国新聞の県北記事にも何度か掲載していただいた。

神楽部があることが特色。市外から神楽のため、来ている子もいる。

8月12日/ブドウの栽培。安芸高田市内のぶどうの栽培面積の半分を経営している。昔から認知度が高く、広島市内から買いに来られる方もいる。JAの道の駅で販売実習などもさせてもらった。

9月14日/大雨災害で、ボランティアセンターに人が集まらないことから、夏休みということで生徒に紹介したところ何人か参加してくれた。夏休み明けも放課後や土日に参加してくれた。

10月5日/川沿いの家が浸水したこともあり、付近の約100件の家にたいして、100パックのブドウとメッセージカードを添えて贈った。

10月16日/サンフレの選手になった

11月3日/道の駅と農家、高校の3者が協力する形で、サイダーを作った。

11月20日/アグリビジネス科の生徒に対して、研修会・講座を地元の農業委員さんに行ってもらった。

探求科の中で、地域の課題を発見し、自分の見方につなげる。地域の方を学校にお招きしたり、現場に行ったりすることもある。コロナ禍なので、手広くしたいところだが、抑えなければいけない現状。

(2)向原高校

生徒の在籍状況(73人)と内訳について

↓↓地域の方との取組↓↓

一緒に菊を育てていく取組

一緒にプログラミング(ドローン)を飛ばす

ガーデニング

入学者確保のために、どのように地域と関わっていくかというところを職員と知恵を出し合っている

学力、進学実績の向上をよくいただく。これらの取組は強化しながら継続する。

町内にある古民家を地域の活性化というところで取り組まれているので、高校が入らせてもらい、一部借りながら本校の魅力発信ができないかというところを地域と連携しながら取り組んでいる。

主に甲田中から生徒がハンドボール部に入りに来てくれる。特色づくりをハンドボールで進めたいという思い。どうやって目玉にするか検討中。下宿等の確保という部分を地域と連携中。ハンドボールで生徒を勧誘したいが、交通アクセスが難しい。公共交通機関を利用することができない中学校に対して呼び掛けても物理的に無理。そういったところをカバーするために

下宿ができないか。

芸備線沿線の中学校から来てもらうのが現実的。芸備線沿線の中学3年生の減少で、入学者も減少している。交通アクセスが難しいところからの入学者を増やすため、地域と連携してできないかと進めているところ。

永井委員

安芸高田市中学校生徒の進路状況①・②・③、市内中学生の進路先（私学なし）の資料を持ってきた。回収しないので委員の皆さん取扱注意でお願いしたい。

- ・1枚目は市内県立高校にどれくらいの割合が進学しているかの状況
- ・2枚目は国公立、私立、県外の高校にどれくらいの割合で進学しているかの状況
- ・3枚目はグラフで、市内の高校、その他で見たとき年代でどのような変化があるか
- ・4枚目は県内の県立・市立の各中学校からの高校進学先状況

高宮町川根小学校では、地域へ出向いて地域を学ぶ学習に取り組んできた。地域への自信や誇りを伝えよう、地域を知らない子供たちが地域に残ることはありえないという思いのもと、地域の文化や伝統などを体験的に学ぶ取り組みをしてきた。

教育長を拝命してから、地域を学ぶということで、ふるさと学と銘打って、副読本を作ってきたが、今年度から「未来チャレンジ探求学習」という、いわゆる探求学習を市内小学校・中学校で一斉に取り組んでもらい安芸高田市の義務教育の一つの特色として打ち出している。

今日聞きながら、取組の主役である生徒の自己実現を応援するとか、主体的に判断し生き方を形成する力などとなると、地域という言葉が先に出ると、考え方の組み立てに苦悩してしまうことになる。

子供の自己実現を応援するとなれば、地域を離れて、将来どういうことをしたいかということ子供から聞き出して、それを大人が応援する形にもっていく。その方が、逆に子供たちが地域を考えるとこに戻ってくるのではないかと悩んだり考えたりしている。

地域にこだわらないことはありえないと思うが、バランスを考えていきたいなと思っていた。

牛来委員

最初に突拍子もないこととあったのが、自分の業種で考えると、例えば高校生の起業や起業家を生み出そうとか、なんでもテーマはいいと思う中で、探求教育なら安芸高田に來いみたいな感じはすごくいいと思った。

良いネーミングや見せ方が必要で、探求をテーマにするなら、安芸高田が認定する高校生の〇〇博士とか認定制度を作ったり、三次だったら女性起業家の認定制度を市が作ったりしている。伝えるときに、安芸高田の高校には〇〇博士がいるという人が出くればイメージが根付くと思った。

福岡委員

探求するフィールドに地域がなるというのはあるべき姿だと思う。

安芸高田に移住してきて、地域のいろんな活動や、人を通して、すごく学べる、突き詰めようと思ったら突き詰められる内容がそろっていると感じている。高校生が学びやすい形にどうコーディネートするのかという人が、必要だなと感じている。

学校の中の何かを変えるとは視点が違うかもしれないが、地域と高校生をつなぐ人がいるような地域、学校の中だけでなく、自分のゆとりある時間でフィールドを探求することができる町なら残りたくなるかなと思った。

また、先ほどグローバルとつながるとあったが、安芸高田市はグローバルとつながるポテンシ

ヤルがすごくある。だから、生徒減少そのものにも高校生の学びがあると思うので、そのあたりをうまく活用できればと思った。

佐田尾委員

コロナ以降、東京から地方に本社を動かしている企業などの例がある中で、田舎に住んでグローバルなことを考えて良いわけである。それを高校教育とどのようにつなげるか、流れとしてはそうなりつつあるのかなという風に思う。

上水流委員長

大事なことで、石丸市長と話をする中でも出たのは、地域に残すってことを念頭にやるのではなく、子供たちが実現したい夢をどう考えていくかっていうこと、どうサポートできるかっていう視点で考えて欲しいということだった。

そういうところで共感したので、永井委員が話されたことは非常に大事な視点だなと思っている。その結果として、子供たちが地域の中でも自分の夢が実現できることに気づいてもらえれば残っていくだろうし、いつか戻ってくることもあるだろうと思っている。

さらに言えば、何か特色がしっかり見えるようなことが、必要なんじゃないかなと思った。

吉田高校の様々な活動を紹介していただいて、やっぱりすごく魅力的なことをしているなというふうに思っている。すごくポテンシャルがあると思っている。

そのことが安芸高田市だけじゃなくて、少なくとも広島県下ぐらいで、吉田高校ここみたいな感じになっていくと、いろんな人が集まってくれるんじゃないかなと思う。

佐伯高校の女子野球は、全国的にも名前が広がってきて、全国から生徒が集まってくる状況になっている。そうした事例あるので、同じぐらいのインパクトがあることを考えていかなければならないのではないかなというふうには思う。

もちろん、最終的には校長先生の判断が大事だと思っている。そこに関して、各委員からいろんな意見を出していただければいいなと思う。

本日出た意見では、下宿等の確保。これはとても大事で、実は、日彰館高校でも取り組んでいる。そうした地道な活動もやっておかないと、生徒は集まらない。

特色づくりと、受入環境の整備の二つの戦略をしっかりと見ながら、やっていくってことが必要だと思う。

次回、アンケート結果を受けて、各委員としゃべりと思っている。もうちょっと、しっかりしゃべる時間を確保しながら、校長先生といろんな対話ができるような形にしていければと思っている。

事務局

今日の内容等も整理して、アンケートの内容も修正を加え、またご確認をいただいた上で、学校の方に出したいと思っている。

次回の会議は、8月上旬に想定している。

また日程については調整させていただくので、お願いしたいと思う。